巻　頭　言

島根県立中央病院　病院長　小　阪　真　二

今年度のノーベル生理学・医学賞を受賞した坂口志文氏の制御性T-cellの論文は10年以上見向きもされなかったそうですが，坂口氏はそれでも地道に研究を続けられ，ノーベル賞を受賞するような業績を積み重ねられました．新型コロナワクチンにも利用されたmRNAの臨床応用を実用化させたカタリン・カリコー氏も長年不遇の時代を過ごしましたが，mRNAを利用することにより短期間で新たなウイルスに対するワクチンを製造することができるようになった功績で，2023年にノーベル生理学・医学賞を受賞しています．

この頃は，なにかというと効率性であるとかタイパなどと言われますが，このようにじっくりと一つの物事に向き合う姿勢も大切であると感じます．

当院の臨床研修の理念にも書かれている涵養という言葉がありますが，自然に水がしみ込むのと同じように，無理をしないで少しずつ教え養うことをいうそうです．鉢植えの植物と地植えの植物を比べてみるとよくわかりますが，やはり地植えのものは，水の管理などをしっかりせずとも植物が長持ちすることが多いように感じます．地面にしみ込んだ水の力でしょうか？やはり時間をかけて身に着けた知識とか経験というものがいざというときに役に立つように思います．

江戸時代には，寺子屋で論語などの素読を繰り返し，その教えを体に覚えさせることが教育でした．何かあったときにその教えがすぐに活用できるように学問の身体化を目指していたと考えられます．現代はAIなどで検索すればなんでも調べられるような時代ですが，手術中のトラブル，救急医療の現場などでは，検索する時間もなく対処を強いられる場面がしばしば存在します．

戦闘機のパイロットは反射的に物事を判断し，対処できなくてはなりません．そのためOODA（Observe Orient Decide Act）ループという概念が生み出されました．一瞬のうちにこのOODAループを発動して対処しなければならないのです．ChatGPTに質問を投げる時間もない状態では自分の体にしみ込んだ知識のみが成否を決めます．

皆さんも日々の努力で知識を知恵に変え，体にしみ込ませて厳しい医療の世界を生き抜いていってください．